

平成30年度授業改善スクールプラン

学校番号	学校名	記載責任者（職・氏名）
5	大分県立別府鶴見丘高等学校	校長 酒井 達彦

1. 学校全体の授業改善計画

①授業改善テーマ	「思考を揺さぶる発問」によって、言語活動を充実させることにより、主体的な学びを育む授業を構築する	
②授業改善の重点	1 言語活動を充実させ、主体的な学びを重視した授業を推進する 2 「生徒に身につけさせたい力」を明確にし、思考や気づきを深める発問を効果的に取り入れた授業を実施する	
③取組内容	【教科の取組】 1 授業改善の重点に基づいた授業及び研究授業を実施する 2 教科会議の中で、教科全体及び個々の取組について情報交換・協議する 3 学習の成果物をポートフォリオとして、生徒の自己評価につなげる	【6つのアクションに基づく取組】 1 身につけさせたい力に基づく目標を生徒と共有する 2 目標に基づいた発問、生徒の思考の流れや気づきに配慮した発問をする 3 目標の実現状況を評価する場面や振り返りの機会を設ける
④取組指標	1 教科会議で、日々の実践に関する授業改善のまとめを月1回実施する 2 全授業の6割以上で、言語活動（グループ活動等）を取り入れる 3 全授業の6割以上で、「思考を深める発問」を実施する	1 授業の始めには、必ず本時のねらいを提示する 2 一時間の授業の中で、思考を深める発問を行い、対話や表現につなげる授業を実施する 3 授業の終わりには、必ず本時の振り返りや自己評価の場面を設定する
⑤検証指標	1 「授業の中で、自分の考えを表現（発表等）する場面がある」生徒の割合が6割以上 2 「主体的に授業に取り組んでいる」生徒の割合が6割以上 3 授業アンケートにおいて1回目よりも2回目のポイントを全教員増加させる	

2. 各教科における授業改善計画

教科	②授業改善の重点	③取組内容	④取組指標	⑤検証指標
国語	単元または1時間の授業で求める力（読解・整理・編集・表現等）を整理し、精選した発問により生徒が主体的に思考する授業展開を研究し、各自の授業改善に努める。	思考を揺さぶり「求める力」を養成する方途とポートフォリオを用いて生徒の記述を分析・評価する具体的な方法について、教科会議での交流・研鑽・目線合わせに努め、生徒に還元する。	週1回の教科会議で各自の授業改善にむけた取り組みを継続的に討議し、それを適宜集約することで、永続的に以後の本校国語科の指導に活かせるよう財産化を図る。	「教科の授業改善の重点に関する生徒授業アンケート」で、自分の「主体性」を自覚する生徒8割以上を目標とする。
地理歴史	学習者の主体性を引き出し、思考力を伸ばし深めるために、授業目的を学習者と共有し、授業を貫く発問を効果的に導入した授業づくりに向けて、その方途を研究し改善する。	教科会議の中で、授業改善の重点に基づき、「思考を促し深める発問を導入した授業づくり」およびこれに適したポートフォリオを活用した評価法について情報交換・協議し授業実践に還元する。	月例の教科会議で取組内容を省察する中で、単元の特性に応じて、年二回の研究授業や日々の授業実践に活かす。	年二回の「教科の授業改善の重点に関する生徒授業アンケート項目」について、教科独自の質問項目のポイントを上げる。
公民	学習者の主体性を引き出し、思考力を伸ばし深めるために、授業目的を学習者と共有し、授業を貫く発問を効果的に導入した授業づくりに向けて、その方途を研究し改善する。	教科会議の中で、授業改善の重点に基づき、「思考を促し深める発問を導入した授業づくり」およびこれに適したポートフォリオを活用した評価法について情報交換・協議し授業実践に還元する。	月例の教科会議で取組内容を省察する中で、単元の特性に応じて、年二回の研究授業や日々の授業実践に活かす。	年二回の「教科の授業改善の重点に関する生徒授業アンケート項目」について、教科独自の質問項目のポイントを上げる。
数学	条件や問題を言い換えることで、多面的に捉え既知の内容に結び付けられるような発問から生徒の表現・発表を通して、主体的な学びを引き出す。	授業実践報告や入試問題検討・作問により、条件を多面から見て気付かせる発問と生徒の発表やポートフォリオ評価法について研究・協議し、授業で実践する。	週一回の教科会議を活用する中で、日々の授業での実践をまとめ、研究授業や日々の授業に活用する。	年2回の「教科の授業改善の重点に関する生徒授業アンケート項目」について、1回目よりも2回目のポイントを上げる。
理科	実験・観察を通して、科学的な思考力を養うことを目的とし、思考を深める発問を効果的に取り入れた授業を実施する。	教科会議で、各科目ごとに教材の工夫・ICT機器の効果的な利用・入試問題検討・実践報告など、情報交換や協議を行う。	全授業の6割以上で「思考を深める発問」を取り入れる。教科会議で、授業改善のまとめを月1回行い研究授業や各科目での改善に役立てる。	「教科の授業改善の重点に関する生徒アンケート」のポイントを上げる。
保健体育	言語活動を充実させた、主体的な学びを重視した授業について研究し、授業改善につなげる。	単元毎に目標の設定・目標を達成するための課題の設定、課題解決方法、キーワード等を研究し、授業で実践し主体的な学びへつなげる。	週1回の教科会議の中において、授業改善へ向けた情報交換を行い、授業実践へ活かす。	年2回の「教科の授業改善の重点に関する生徒授業アンケート項目」について、教科全体のポイントを上げる。
芸術	自分の思いを醸成する発問の工夫。「思考・判断力」の観点に基づいた目標を設定し、表現・発表できる。教科会議で「知識・技能」「思考・判断・表現」の評価について研究していく。	発問を意識した言語活動ができるワークシートを作成する。広がりや深まりを生徒が感じる作品制作ができる教材の研究。教科会議を通して、個々の取組について情報交換・協議する。	各単元毎に、一回は言語活動（グループ活動等）を取り入れる。他教科の互見授業に参加し、教科会議等を通じ情報交換を行い、授業に活かす。	「授業に主体的に取り組む生徒」、「授業の中で、自分の考えを表現（発表等）する場面がある」生徒の割合が6割以上。「教科の授業改善の重点に関する生徒授業アンケート」で1回目より2回目のポイントを上げる。
外国語	「思考を揺さぶる発問」を常に意識し、各学年に応じた英語での表現活動を促す指導について研究し、授業改善に繋げる。	日々の実践を通して、英語での表現活動に適したポートフォリオ評価法について週1回の教科会議で研究・協議する。	教科会議での情報交換を基に、年間授業の6割以上で、思考を揺さぶる発問、または言語活動を取り入れるように工夫していく。	教科の授業改善の重点に関する生徒授業アンケート項目（英語を使って自分の考えを表現している）で1回目よりも2回目のポイントを上げる。
家庭	将来、主体的に生活を築いていくために必要な知識・技術・考え方・人との関わり方などを身につけさせることを目標に、内容の精選と言語活動を多く取り入れた主体的で深い学びにつながる授業を実施する。	教科会議で、特に「効果的な発問」「思考を揺さぶる発問」に関する情報交換を行い、授業改善に役立てる。毎回の授業で自分の考えをまとめさせたり、自己評価をさせ、主体的な学びにつながるようにする。	全授業の6割以上で、グループ活動やペア学習、実験実習、作業、ICT機器などの手法を取り入れ、自分の考えをまとめたり、表現・発表できる機会を持たせる。	「授業に主体的に取り組む生徒」が6割以上。「生徒授業アンケート」で1回目より2回目のポイントを上げる。
情報	情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を育成するための発問を工夫し、さらに自ら主体的に表現できる授業を実施する。	ICT機器を効果的に使うことによって生徒の興味関心を引き出し、さらにグループ活動によって主体的に表現する場を多く設けることで意欲的に取り組む生徒を増やす。	授業の主題と発問内容、言語活動について単元毎に自己点検して授業改善に反映させる。	「教科の授業改善の重点に関する生徒授業アンケート項目」について、ポイントを上げる。